

園長室だより

令和2年度 第11号（1月29日発行）大阪市立立葉幼稚園長 岡林 朗子

1月に入り、本格的な寒さの中、3学期が始まりました。例年にないほどの寒さに、鹿威し（ししおどし）のつららやタライの氷を見つけて、冬の現象に心を動かしていました。その感動や、幻想的な世界を子どもたちは冷たい空気やにおいなど感覚で覚えているものです。そして、クラスで友達や先生と、発見や感動をそれぞれの言葉にし、友達と伝え合い、共有したことでしょう。そして、次への期待や意欲につながっていくのです。この時期ならではの冬の現象を楽しみながら、それぞれの思いを言葉にし、共有してくれる友達の存在や、伝え合う喜びを感じるととても充実した3学期です。

友達と一緒に表現する楽しさ、共有する喜び、心を合わす心地よさなど、3学期の育ちの集大成として幼稚園では生活発表会で劇遊びを行います。劇遊びを通して、言葉で表現し、友達に伝え、共有していくこと、時には折り合いをつけていくことを学んでいきます。『友達とイメージを共有する』という言葉は安易に聞こえるかもしれませんが、子どもたちにとっては、思いを言葉や身体で表現してこそです。それぞれの思いを言葉で表し、すり合わせ、共有し、一つの劇をつくっていくのです。その過程は楽しいものであり、充実しているものでもあり、また担任にとっては、醍醐味でもあり、苦勞し、悩むところでもあります。子どもたちと担任で作った劇遊びを2月にどうしても見ていただきたいのです。

安全面と子どもたちが自信をつける場の保障を考え、生活発表会を実施します。様々ご無理を言いますが、ご理解ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

ばら組



劇「ぼんたのじどうはんばいき」
子どもたちの大好きな絵本です。ライオンが出てきて、なべなべそこぬけをして遊んでいます。友達とのふれあい遊びも劇遊びの大切な活動の一つです。（もちろん劇遊びの前の消毒は欠かせません）
『恥ずかしい』という気持ちも出てくる4歳児の発達ですが、子どもたちは楽しく遊んでいます。

もも組



劇「もりのおふろ」

前で言葉を話す子どもたちだけでなく、友達の様子を見ている子どもたちも、ちゃんと参加しています（写真左）歌をうたったり、時には参加を忘れていた友達に声をかけたり…。また、3歳児は先生と一緒に表現しています（写真中央）手助けに入っている前地先生も誘われて、最後のお風呂に入っています（写真右）

ゆり組



劇「さんまいのおふだ」

影絵も使って劇遊びをします。保育室のスクリーンにどのように映るのかいろいろ映してつくって、試して試行錯誤しながら、遊びながら進めていました。そして、遊戯室でどのように映すかを子どもたちと相談しています。大きなスクリーンは白石さんの手作りです。



予行前の脚本
予行からまた変わります

担任の先生は、子どもたちの表情、しぐさなど様々な表現を拾い上げ、劇にしていきます。本屋で劇のための脚本が売っていますが、そういった物は使わず、脚本ありきではなく、先生たちが子どもたちの表現を受け、絵本に沿ってつくっていくものです。そのため、20年担任をしていますが、同じ脚本を使うことはありません。担任と子どもたちでつくり上げた劇遊びです。お楽しみに！